

使用前事業者検査の見通しについて

令和 3 年 5 月 21 日

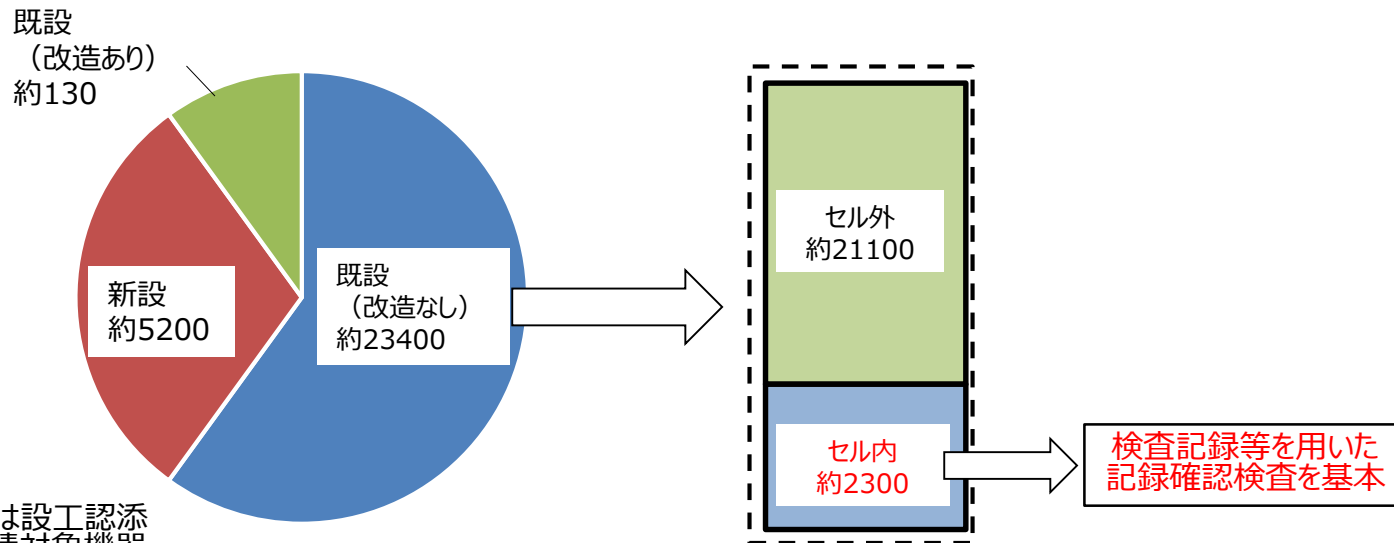


日本原燃株式会社

使用前事業者検査の見通しについて

<基本的考え方>

- ・新設はアクセス可能であり、実検査を実施可能。
- ・既設（改造なし／改造あり）は、設計、製作、施工に係るQMS体制（原燃、協力会社）を確認するとともに、設計、製作、施工に係る記録および検査記録等の各記録を用いた検査を行う。必要に応じて維持管理記録を確認するとともにアクセス可能なものに対しては目視、実測を行う。



注) 本割合は設工認添付書類の申請対象機器の数量を基に算出。配管ライン数は追而。

使用前事業者検査対象の分類イメージ

<現状>

- ・アクセス困難なセル内の機器約800/2300（全体の約35%）について、全ての検査記録等について確認。ただし、全ての記録が満足していないものが2%あった。

<今後の作業>

- ・残り約1500/2300（全体の約65%）の機器についても同様の確認を行い、6月末までに整理を完了させる予定（残り1500は、メーカーの検査記録も含め当社が保有する記録を確認する作業であり、6月に完了する見込み）。

使用前事業者検査の見通しについて

<検査前条件における関連設備の健全性評価について>

検査前に健全性を評価する必要がある構造物については、埋込金物が考えられるが、それ以外に該当するものがないかについて、対象を精査中。

○確認対象

検査前条件として健全性確認すべき対象を明確にする。

○確認方法

健全性確認をすべき対象に対して埋込金物を参考に確認方法を明確にする。

なお、検査前条件である埋込金物については、以下のとおり確認している。（検査前条件としてこれらで確認した記録を確認する）

- ・埋込金物はこれまでの記録および現物確認により不適合がないことを確認している。 <次頁参照>
- ・セル内の800機器の確認結果に埋込金物の確認結果も含まれている。また、埋込金物の設計図書、施工記録、検査記録等が確認できている。
- ・セル内の埋込金物が適切に施工されたかについては、セル内の施工を行った協力会社に対しセル外の検査記録との関係性およびセル内にQMSが適用されていることを確認することによって不適切な施工はないと評価している。
- ・なお、不適切な施工を行った業者はセル内で作業しなかったことを確認できている。

<参考> 埋込金物の健全性確認

1. 事象発生

- 2015年8月26日に確認した、再処理施設の一般共同溝内の一般蒸気配管のサポートを固定している埋込金物の浮き上がっていることを確認した。

2. 健全性確認結果

- 再処理施設等の埋込金物（総数約52.9万枚）に対し、以下の考え方で健全性確認を実施し、使用可能な状態であること、または一部の埋込金物については設備・機器を支持しないことを確認した。また、浮き上がった埋込金物および不適切な施工等を行っていた埋込金物については、不適合処理を行い、全て処置を完了した。

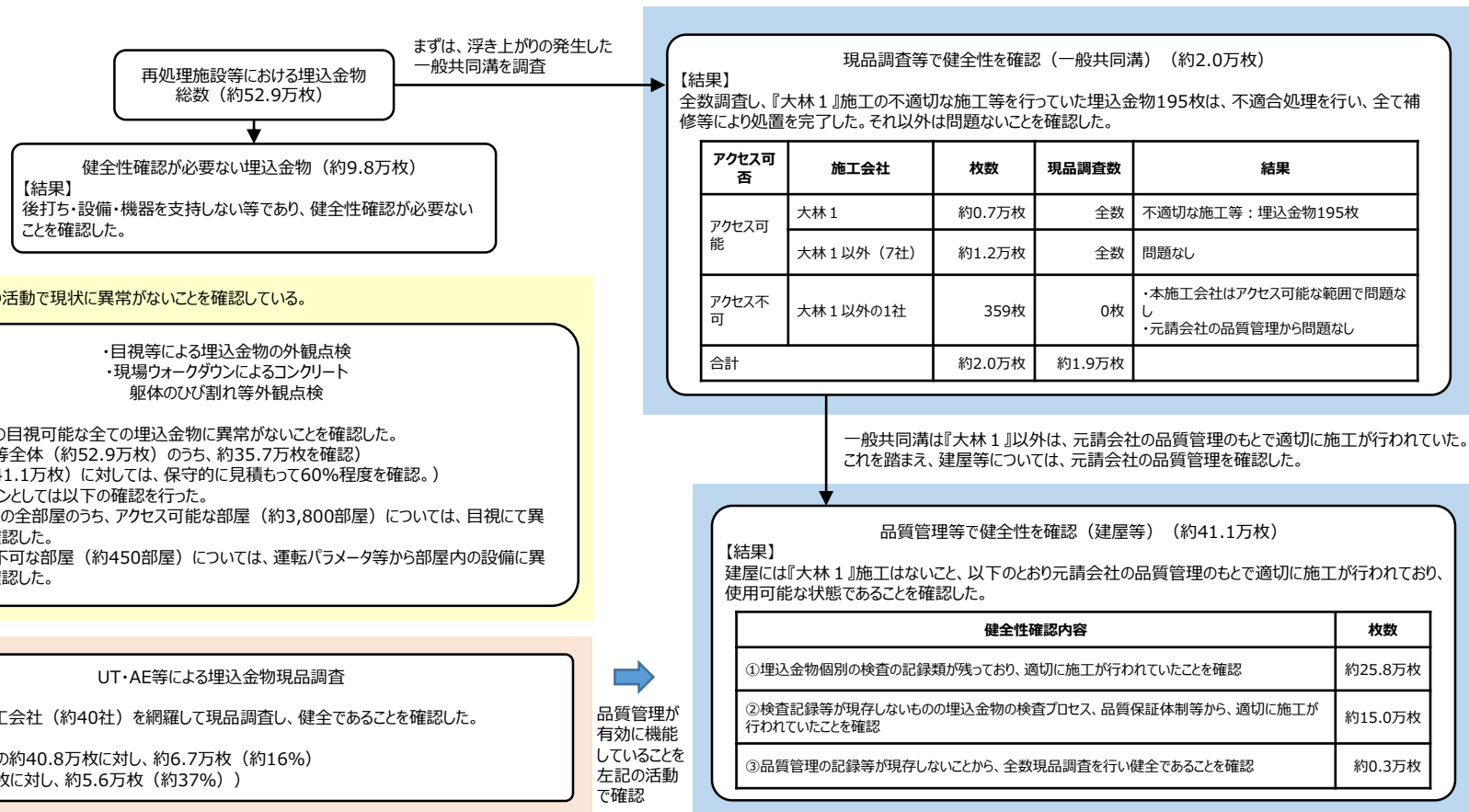


図1 埋込金物の健全性確認の考え方（概要図）